

令和7年度 愛知県立時習館高等学校 学校評価結果

<p>本年度の 重点目標</p>	<p>「時習館スピリッツ」と「時習館の学びの物語」を確立し継承するとともに、中高一貫教育と国際バカロレアを着実に導入する。</p>		
担当	重点目標	具体的方策	総合評価
総務部	<p>(1) 生徒・職員の防災意識をより高める。 (2) 附属中学校開校に向けて学校安全マニュアルを改定する。 (3) 家庭と学校との間の、簡便で密な連絡方法の確立を目指す。</p>	<p>(1) 生徒・職員に「防災・減災だより」を発行し防災意識の向上を図る。 (2) 防災訓練・職員防災研修等を通じて、生徒・職員に今年度以降の課題を考えさせ、学校安全マニュアルに反映させる。 (3) 「デンタツくん」の安定的な運用体制確立を目指すとともに、利用の方法や機会について検討する。</p>	<p>教職員・生徒・保護者から防災の取り組みについて高評価を頂けた。教職員、生徒全員で時習館の防災について考えていくことができたのではないかと考える。特に、防災訓練は例年になく、教職員に多大な協力を仰ぎ、生徒の声を聞く機会を増やした。一年間を通して、意義ある訓練、研修になったと考える。 一方、防災に関連した課題の改善や、訓練後のフィードバックの不足など、改善の余地があると考えている。</p>
教務部	<p>(1) 中高一貫、全日制単位制のスタートにむけて、各教科と連携しながら、本校にふさわしい教育課程を編成する。 (2) 中高一貫のスタートにむけて図書館の整備を進めるとともに、来館者を増やして活気ある図書館にする。</p>	<p>(1) 他校の実例を踏まえながら、教科会と密に連携し、教育課程の編成を行う。 (2) 生徒(中学生を含む)の興味を引く本の選定や、図書委員の活動、図書館の展示などを工夫する。</p>	<p>教育課程が変わるタイミングにおいては、環境の変化による混乱が起こることが想定される。それを最小限に抑えるためには、事前に共通理解を持つてもらったり、各教科との連携を密にすることが重要である。また、その成果が少しでも早く生徒に還元されるよう、実態の把握と振り返りの適切な実施に努めたい。 また、中高一貫教育の開始に向けて図書館の整備を進め、生徒が来館しやすい図書館になってきている。しかし、本の整理までは手が回らなかった。来年度はますます蔵書が増えるので、現在ある図書を再確認して、廃棄も含めた蔵書の整理をしなければならない。</p>
生徒指導部	<p>(1) 品位ある身だしなみを心掛け、責任ある行動がとれる生徒を育成する。 (2) 遅刻指数1%未満を目指す。 (3) 交通安全や交通マナーの遵守を徹底する。 (4) いじめや不登校の未然防止や早期発見に努める。 (5) 学校行事・部活動・ボランティア活動などに積極的に取り組むことのできる生徒を育成する。</p>	<p>(1) 身だしなみ指導、立ち番指導などの充実と情報モラルの実践を促すことで生徒の意識の向上を図る。 (2) 担任との連絡を密に取り、生徒の精神状態や遅刻の要因を考察する。また、毎学期で3回目・6回目・9回目の遅刻ごとに面談を行い、遅刻の多い生徒に対して支援し遅刻防止に努めていく。 (3) 生徒への啓発活動を工夫し、命の大切さを理解させ、交通マナーを守らせる。 (4) 生活実態調査などを有効に活用し、いじめの未然防止や早期発見に努めるとともに、多様な問題を抱えている生徒への理解を深める。 (5) 行事を運営する生徒への声かけ、部連会や激励会の開催、各種ボランティア事業の広報を通して生徒が積極的に参加できる土壌を整備する。</p>	<p>特別活動の評価が全般的に高く、特に、学校行事が学校生活の中でも充実したものになっていると考えられる。生徒指導については、どの学年も概ねきちんとした制服の着こなしができており、生徒の意識が高く、家庭の理解、協力も得られていると感じる。交通安全・マナーに対する意識の高さについては、毎朝の立番や交通安全24の巡視の成果の表れと考えられる。</p>

担当	重点目標	具体的方策	総合評価
進路指導部	<p>1年 自己を見つめ将来どうなりたいかを考えさせ、最高峰にこだわり進路目標を築き上げさせる。</p> <p>2年 低学年時の目標を持続させ、中励み期として意欲的に学習に取り組ませる。</p> <p>3年 自己のあるべき姿を見つめつつ、最後まで挑戦する勇気を持たせる。</p>	<p>すべての学年で、積極的戦略的に進路情報を発信する。</p> <p>1年 個々の特性を踏まえつつ、将来の「どうなりたいか」について考えさせ、主体的に進路目標を設定させるため、レポート学習を行う。</p> <p>2年 進路行事（進路講演会、学部・学科説明会）や担任面接などを通して、具体的な自身の将来像を考えさせ、より明確な進路目標を設定させる。</p> <p>3年 設定した進路目標の具現化のため、最後まで粘り強く志望校に挑戦し続けるよう指導する。日々の授業が強固な学習基盤となるように、進路講演会や補講・学習会、大学別の説明会でやる気を喚起する。</p>	<p>進路指導に対して様々なご意見はありながらも、全体的な満足感は得ているように感じる。難関大の合格実績が目目されることも多いため、第一に生徒の学力を伸ばすことができるような仕組みづくりを継続していきたい。</p> <p>また、学力のみでなく困難に立ち向かう力や高みに挑戦していく力等の人間性や生きる力を伸ばしていくことも進路指導の一部として大事にしていきたい。今後とも進路指導部として生徒の進路実現につながるような指導法の研鑽に努めたい。</p>
保健部	<p>(1) 健康と安全に留意して学校管理下(授業・部活動・学校行事など)の事故や怪我の減少を目指す。</p> <p>(2) 各委員会活動(保健・美化・緑化)の充実を目指し、生徒の主体的な活動の促進に努める。</p> <p>(3) 感染症の予防や保健衛生、美化・緑化などの環境衛生活動の推進を図る。</p>	<p>(1) 安全点検の徹底と修繕の迅速な対応を目指し、予測可能な事故や怪我の予防策を周知させる。</p> <p>(2) 定期開催の各委員会を生徒主導の委員会となることを目指し、意義や役割、責務を理解させる。</p> <p>(3) 学校に関わる全ての職員・生徒が安心・安全な活動が送れるような環境づくりを目指す。</p>	<p>目標達成に向けて生徒・職員で協力し、日々計画・実行・反省・改善を図ってきた。今年度のアンケート結果や実績から考えると、保健室利用において内科・外科ともに増加しており、評価としても保健項目に関する内容が昨年度よりも、全体的に5段階平均がやや減少している。学校関係職員及び生徒・保護者にアナウンスする機会を通して、保健部の活動を具体的に知ってもらう工夫を検討すると同時に、学校管理下における職員・生徒の健康や安全、環境美化・整備、健康の保持増進を学校全体で取り組みたい。また職員・生徒の心身の充実を図り、持続可能な学校環境となるように努めていきたい。</p>
探究推進部	<p>(1) 第Ⅳ期SSH事業の目標である「総合知の獲得」を目指した教育活動の具体的方策を、全職員体制で検討、実践する。</p> <p>(2) SSH・あいちリーディングスクール(以下「あいちLS」とする)事業の成果普及のための広報活動を充実させる。</p>	<p>(1) 2年生の「総合的な探究の時間」において、主務者以外に各講座のリーダーとなる教員を配置した指導体制を確立し、学年の全教員で「総合知の獲得」を目指す教育活動を展開する。</p> <p>1・3年生の「総合的な探究の時間」についても、全担当教員の知見や先進校の事例を取り入れながら、生徒の将来に接続する教育活動を目指す。これらの取組は「探究推進専門委員会」から教科会にも伝達し、各教科における探究型の教育活動(以下「探究型授業」とする)の機運の向上に繋げる。</p> <p>(2) SSH・あいちLS事業の成果を、本校生徒を対象に普及させる場を設ける。また、事業実施時の写真や参加生徒の声を、ホームページを活用し、保護者や地域に向けて積極的に発信する。</p>	<p>アンケート結果から分かるように、SSH・あいちLSともに教職員・生徒・保護者の評価は高水準である。SSH・あいちLSともに多くの先生方に協力していただくことで運営できている。Ⅳ期SSHとして文理融合、探究コースなどあらたな取り組みの中で生じた様々な課題を来年度に生かしたい。</p> <p>広報活動については、ホームページのリニューアルが、外部への発信に大きな効果を果たしたと判断する。今後は、本校生徒に対する校内広報の在り方についても検討したい。また附属中学校の生徒募集を鑑みると、小学校への広報活動をいかにこなしていくかも今後の課題の一つである。</p>

担当	重点目標	具体的方策	総合評価
1年	<p>高い進路目標を実現するために、自考自成できる生徒の育成。</p>	<p>指示・課題を減らし提案を増やす～自考自成に挑戦させる～</p> <p>(1) 難関国公立大学を目指す意義を理解させ、自身が行くべき大学を考えさせる。</p> <p>(2) 無用の遅刻欠席をさせない等、基本的生活習慣を定着させ、信頼できる大人にさせる。</p> <p>(3) 授業第一ならびに家庭学習週25時間を徹底させる。</p>	<p>学校生活や学習内容、学習進度などにおいて、これまでの義務教育段階と異なっていることに対してまだ戸惑っていたり、適応できていない生徒もいる様子である。この1年間で、様々な経験を積み、学び、より良い2年生になってほしい。教員への評価は肯定的な意見が多いので、今後も生徒に真摯に向き合い、学習指導や進路指導に臨んでいきたい。</p> <p>一方で、探究活動やSSH・LS事業への評価はあまり肯定的でなく、その魅力が伝わっていないような印象である。内容を精選し、学習や学校行事、部活動のように、生徒が積極的に参加できるような取り組みが必要であると感じた。</p>
2年	<p>(1) 時習館高校の中核としての自覚と自律心を持ち、自考自成できる集団を育成する。</p> <p>(2) 心身の健康を保つことができる基本的生活習慣を維持させる。</p> <p>(3) 高い進路目標を掲げ、実現に向けて自らの課題を見つめ、自律的に学習に取り組む習慣の確立を目指す。</p>	<p>(1) 生徒たちが自覚に基づいた主体的な行動を取ることができるよう、生活習慣、挨拶、清掃、部活動や学校行事への参加について、学年団で指導方針を共有し継続的に支援する。</p> <p>(2) 授業の価値を高め、大切にさせる指導を中心に、担任面談や学年集会、教科指導を通じて高い志を持たせる。</p>	<p>年間を通して、前向きに学習に取り組む生徒が多かった。授業を大切にすることで学力の伸長を図り、担任面談や学年集会で生徒の学習意欲の向上に努めてきた。来年度は生徒の進路実現に向け、より一層学年としての考えや指導を浸透させていきたい。</p> <p>行動面に関しては、部活動や行事に積極的に参加することができていた。各クラスのリーダーが前向きに取り組み、協力して行事を盛り上げていた点がよかった。</p> <p>来年度は受験を迎える学年となるため、生徒が自走できるような環境づくりや指導ができると良い。</p>
3年	<p>時習館高校の最高学年としての自覚をもち、進路目標の実現に向けて、高い志と強い意志で取り組むことができる集団の育成を目指す。</p>	<p>(1) 学年団で方針を共有して指導にあたり、これまでに確立した基本的生活習慣の維持を促す。</p> <p>(2) 学年集会や担任面談などを通じて自ら目標に向かう意識づけを行い、進路に対する高い志を継続させる。授業を大切にすることを心掛け、学力中位層の引き上げ、上位層・下位層へのフォローを実施する。</p>	<p>生徒アンケートの質問1「先生方の考えや話は興味深くよくわかる」に「思う」「やや思う」と答えた生徒は76.8%にのぼり、教育活動全般や学習指導、進路指導を始めとして生徒・保護者双方から高い評価を得ている。これらを通じて、生徒との信頼関係を築くことができたと考えられる。保護者は、学校の雰囲気や国際交流などの特色について特に評価をしており、学習だけではなく学校全体の様子が高評価につながっていることが伺える。</p> <p>生徒たちは日々の学習はもちろん学校行事、探究活動など何事にも前向きに取り組む、大学受験にも団結して励まし合いながら臨んでいる。アンケートからも、充実した学校生活を送ることができたことが読み取れる。</p>